

第4学年社会科学学習指導案

1. 単元名 「東京都の特色ある町」
小単元名 「国際交流に取り組む新宿区」

2. 単元の目標

(1) 社会科としての目標

○外国人が多く住んでいる新宿区について、地理的な位置、人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べて白地図などにまとめ、取り組みの様子や変遷、人々の協力の様子を関連付けて表現することを通して、新宿区では人々が協力し、特色あるまちづくりに努めていることを理解できるようにする。

○国際交流に取り組んでいる新宿区について、学習問題を意欲的に追究し、東京都の特色あるまちづくりや発展について考えられるようにする。

(2) 汎用的スキル

○多くの外国人が暮らす新大久保ではどのように町づくりを行っているかを調べ、考えることができる。
(問題解決力) (協働する力)

(3) 態度・価値

○新大久保の商店街の人などがお互いに助け合いながら街づくりを行っていることに気付くことができる。
(他者に対する受容・共感・敬意) (よりよい社会への意識) (協力し合う心)

3. 児童の実態

4年2組の児童は教材や社会の問題に対して興味・関心が高い児童が多い。これまで学習したゴミの学習でも、太平洋ゴミベルトの問題や太平洋のごみが流れ着くヘンダーソン島のことなどとても積極的に発言する姿があった。また、その問題について自分なりの問題意識をもったり、様々な解決方法を模索したりする姿が見られている。しかし一方で、そうした問題意識を行動に移すことには課題があり、意識と行動に移すことの差がしばしば問題となってきた。

4. 単元について

①教科から見た特性

本小単元では新宿区の新大久保を取り上げる。本小単元は、「東京都の特色ある町」の中で「国際交流を行っている地域」を取り上げ、東京都の全体の見方を深めていく単元である。現在、様々な地域で国際交流を行っている地域がある。姉妹都市提携を組み合わせながら区市町村全体で取り組んでいる事例もあるし、行政主体で区市町村内での国際交流を行っている地域もある。そうした国際交流を行っている一つとして新大久保は挙げられる。新宿区自体が約12%と外国人比率が高い上に、新大久保のある地域では約半数が外国人という地域がある。大久保通りには韓流ショップや韓国料理店などが軒を連ね、多くの人がごったがえしている。また一方で路地を少し入ると他のアジア圏のお店なども見られ、住宅地も店舗のすぐ脇にあり住民との共生が求められている。また「しんじゅく多文化共生プラザ」という外国人支援を行う行政施設もあり、産業を中心とした国際交流の事例地として適していると考えられる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

前述の通り、新大久保では多くの外国人が暮らしている。元々この地域では外国人留学生などが多かった。そうした中で、現在ゴミ問題や騒音問題など多くの問題が発生している。この地域の特徴としてそうした問題解決に向けて共同してクリーン活動を行ったり、大久保まつりなどのイベントを行ったり、K-shuttleというバスを無料で走らせたりと日本人の商店街と韓国の商店街とが協働している例がある。新大久保という地域を盛り上げて、よりよくしようという意識が随所で見られている。

5. 単元計画と資質・能力を育成する主な手立て(全7時間 本時3/7時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1・2時 (つかむ)	・写真に写っている場所はどこか予想する。 ・新大久保はどんなところか調べ、出てきた疑問を元に学習問題を立てる。	○問題解決力	○事前知識をもたせる。
第3・5時 (調べる)	・K-shuttleの設立経緯について調べ、自分の考えをもつ。	○問題解決力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定 ○可視ツールの用意
	・新大久保商店街などが行っているクリーン活動について調べる。	○愛する心 ○よりよい社会への意識	○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定

	・「しんじゅく多文化共生プラザ」の存在意義や活動、活動に対する人の思いについて考え、調べる。	○協働する力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定
第 6-7 時 (まとめ)	・調べたことを新聞にしてみよう。	○先を見通す力 ○向上心	○他者との学び合いの設定

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・ K-shuttle が走っているルートや作られた経緯を調べることを通して、新宿韓国人連合会が行っている取り組みへの思いに気付く。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10 分	 ○K-shuttle の写真を見て、分かったことを発表する。 ・ 赤と青でかっこいいね。 ・ K というマークが付いている。韓国のバスかな ・ たくさん人が乗っているぞ。 ・ 日本と韓国の国旗がついている。	◇これまで話題の中心だった K-POP や韓国料理店、大久保通りを歩く人々ではなく、K-shuttle の写真を提示し、新大久保の新たな見方が生まれるように資料提示する。(可視ツールの用意：問題解決力)
	K-shuttle ってどんなものだろう。	
展開 25 分	○K-shuttle が通っているルートを地図で確認する。 ・ 大久保通りを走っているみたい。 ・ 有名な場所を結構通るね。 ・ 高島屋とかドンキホーテとか有名なお店の前でも止まるんだ。  ○バスの時刻表などの情報を資料から読み取り、作られた理由について考える。 ・ 2015 年からできているんだ。 ・ このバスは無料で走っているのか。このバスだけで儲けを得ることはできないね。 ・ 一日に 4 便か。少し少ないなあ。 ・ このバスは韓国の人が運営しているんだ。なんでだろう ・ 韓国のお店に観光客を増やすためじゃないかな。 ・ でも、区役所とかも通っているからそれだけではないかも。	◇K-shuttle のルートや運航当初の新聞記事など視覚的に実感を持ちやすいものを資料提示する。(可視ツールの用意：問題解決力) ◇K-shuttle について理解が深まるようにするため、韓国商人連合会からの資料を提示する。(多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：他者に対する受容・共感・敬意)
まとめ 10 分	○インタビュー資料を使って韓国商人連合会の人の思いにふれる。 ・ 東日本大震災の時に、新大久保はずいぶん活気がなくなっていたんだね。 ・ 韓国の人も大久保の町を活性化させようという思いがあったんだね。日本人たちはどうなんだろう。 ・ この人たちは自分たちの国だけのことだけ考えているわけではないんだね。	◇外国人も新大久保の町を盛り上げようとしていることに気付かせるよう、インタビューを基にした資料を提示する。(多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：他者に対する受容・共感・敬意) ◆まちづくりに関わっている韓国商人連合会の取り組みについて理解している。(ノート・発言)

●記録映像 無